

下山先生の思い出

三田 肇

福岡工業大学

この 2020 年 1 月に、筑波大学名誉教授の下山晃先生がお亡くなりになりました。ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

自分が下山先生にお世話になったのは、筑波大学で卒業研究室として選んだ宇宙化学研究室の助教授として居られたのが最初です。その後、就職し勤務先が筑波になり、頻繁に研究室に顔を出していました。その関係もあり、宇宙化学研究室の原田馨教授が退官され下山先生が宇宙化学研究室を引き継がれて、しばらくしてから下山先生より大学でもう一度勉強しないかと声がかかり、先生の下で準研究員（文部技官）として採用され、学位取得を目指すことになりました。このことは、自分の人生にとって大きな転機となりました。ここで有機地球化学分野で環境試料中の微量有機物の分析テクニックを習得したことが、現在の自分にとっての礎になっています。

下山先生は、もともと大学では地学を専攻されていましたが、当時の日本の学界での思想的にプレートテクトニクス論が否定されているような状況に嫌気がさしてアメリカに留学したとの話を伺ったことがあります。そして、隕石などの試料中の有機物分析を行うようになったそうです。当時、月の石や隕石などに含まれるアミノ酸分析では、HPLC を使う研究室と GC を使う研究室に分かれており、原田先生は前者の代表格で、下山先生は後者のグループに属していました。このため、原田先生がよく助教授として採ってくれたと話していました。このため、自分が卒研で居た頃の宇宙化学研究室では GC は下山先生のおもちゃと言われており、GC はほとんど下山先生専用で、大部分の学生は HPLC を使っていました。また、有機化学者が非常に強い影響力を持っていた大学の中で、地学出身であるため、あまり居心地が良くなかった面があったと感じていました。このように、いろいろな面でメインストリームを歩んでいなかったせいか、ご本人の性格か、常に周囲に気を配りながら進んでいたような気がします。このような姿をさんざん見せられて過ごしたため、自分もだいぶ先生の影響を受けたようです。

本学会では、ご自身だけでなく原田先生が運営委員長や事務局を引き受けていた時代が長かったため、下山先生が実質的な事務を司っていた時期が長くなります。その関係もあってか、早い段階から自分も学会の運営に加えていただき、学会草創期からの先生方と面識を得ることができました。下山先生は、学会運営について、当時の会長職を原田先生が長らく続けていたことには強く不満を持っており、ご自身が運営委員長の 2 期目を推薦されたときに、前例がないこともあり続けるべきではないと強く固辞し、それまでの慣習を確立させ、去るべき時にはきっちり去るべきだとの考えを示されていました。そして、下山先生ご自身も退官後には学会には顔を出されなくなりました。一時期、本学会で、退官されて暫く学会を離れてしまった先生方をお招きし、この分野が黎明期だった時のお話を伺う企画を作った時にも、ご参加いただくことができませんでした。

今、この原稿を書くためにいろいろ思い返していますが、下山先生から断片的にはいろいろなことを聞かせていただきましたが、それぞれ細部については何も知らなかったことに気づかされました。ただ、文章としてはまとめていく考え方というかフィロソフィーというようなものは、だいぶ学ばせて頂きました。これから、自分も若い世代に少しでも下山先生から学んだことを伝えていければと思っています。

最後に、改めて、先生のご冥福をお祈り致します。